

下北地区統合校開設準備委員会（第2回）概要

日時：令和7年7月17日（木）

13:30～15:30

場所：プラザホテルむつ

プラザホール

<出席者>

○委員

山本 隆悦 委員長、伊藤 文一 副委員長、野呂 政幸 副委員長、
平内 真一郎 委員、佐々木 一浩 委員、山川 隼 委員、木村 努 委員、
吉田 成人 委員、阿部 謙一 委員、濱中 亮輔 委員、畑中 祐美子 委員、
成田 真紀 委員

○オブザーバー

県立むつ工業高等学校

坂下 哲也 教頭、麥澤 美穂 事務長、加藤 始 教務主任、
坪 大輔 設備・エネルギー科主任

1 開会

2 事務局説明

(1) 下北地区統合校に関する説明会（第2回）

■ 事務局が資料1により、下北地区統合校に関する説明会（第2回）の概要について説明した。

■ 委員から次のような意見等があった。

○ B-2案（リニューアル改修を軸とした整備）とすることにより、1回生が3年次に新校舎に入れるとのことだが、今後の入札の結果等によっては、工事が先延ばしになり、1回生が新校舎を使えないこともあり得る。教育内容だけではなく環境整備も重要であり、これは不平等ではないか。

→（事務局）改築での開校が難しいということとなったが、既存校舎の一部を改修することで統合校の教育活動に対応できることを確認できたため、令和9年4月に開校したいと考えている。B-2案は入札不調の可能性が低いと判断し提示した。

○ 入札が不調となるかどうかはやってみないとわからず、1回生が3年次に新校舎を使えることが確実ではない。令和9年4月に開校せず、1、2年でも開校時期をずらし、校舎等の整備計画をきちんとした上で開校すれば良いのではないか。このように校舎等の整備が不透明な中で、校名案や制服等を協議しなければならぬのは釈然としない。

(2) 第1回下北地区統合校開設準備委員会における主な意見

- 事務局が資料2により、第1回下北地区統合校開設準備委員会における主な意見を説明した。

3 意見交換

(1) 校名案の方向性について

①各委員からの校名案候補の提案について

- 事務局が資料3により、委員提案の校名案候補を8月に県教育委員会のホームページ等で意見照会し、その結果を踏まえ、第3回委員会において校名案を3～5案に絞り込むことを説明した。

②意見募集の方法等について

- 事務局が資料4により、校名案候補に対する意見募集において求める意見は「統合校の校名としてふさわしいと考える校名案候補とその理由」とすること、委員提案の校名案候補以外の提案を求めるものではないこと、募集期間は8月の1か月間とすること、ウェブ入力フォーム、郵便、FAXで受け付けること、提出された意見の多寡によって校名案を決定するものではないことなどを説明した。また、統合対象校の大湊高校、むつ工業高校においても意見募集の周知を図ることについて説明した。

- 委員長が各委員に対し、意見募集の方法等について意見を求めたところ、次のような意見があった。

- 「2 求める意見」の※印に「上記1に記載以外の校名案候補の提案を求めるものではありません。」と記載があるが、新たな校名案候補を記載することは妨げない方がよい。あくまで委員が提案した10案から選んでもらうが、どうしても他に意見があるというのであれば、排除せずに聞き入れて、新たな提案も校名案候補の一つとすることができる道を残してほしい。
- 第1回委員会において、委員が提案する校名案候補の中から絞り込むという方向性が決まった。意見募集における新たな校名案候補も受け付けるとなると、既に決まった方向性と変わってくることになるがどうか。
- 委員が提案した校名案候補から絞り込むことが大前提だが、意見募集により新たな校名案候補が提案された場合、私たちがその意見を酌む余地を残してもraitたい。「10案から選んでください。特に意見があれば記載してください。」という程度の投げかけで十分だと考える。
- 「2 求める意見」の※印を削除し、例えば「10案から選んでください。」と記載すれば良いのではないか。
- 「特に意見があれば記載してください」と明記し、他の意見も出せるように

してもらいたい。新たな校名案候補が提案された場合、それらを参考に既出の校名案候補を修正したり、11案目として採用したりすることがあっても良いと思う。せっかく意見募集をするのであれば、多くの方の思いを知りたいし、他の校名案候補があるのであればそれを検討したい。

- 意見募集について幅広く周知できる方法を考えてほしい。
- 統合校の1回生に当たる中学2年生にも意見募集を行ってはどうか。
- 統合校に入学する今の中学2年生の意見は大事だと思う。中学校でも生徒に周知し、既出の校名案候補から選んだり、新しい意見が出るのであれば取り入れたりしても良いと思う。ただし、募集期間が8月中であれば、ほとんどが夏休み期間と重なってしまう。
→ (事務局) 前例では、中学生への周知について検討したが、県立高校ということで、県教育委員会から周知する中学校の範囲について課題があり、結果的には報道機関への周知依頼をもって中学生も含めた周知として整理した。
- むつ市内にある高校の在籍生徒の出身中学校を踏まえれば、意見募集の周知は下北地区の中学校に限定しても不平等とまでは言えないと思う。
- 夏休み前に中学校で意見募集について周知し、夏休み中にホームページを通して生徒が意見を提出するという事は可能か。
- 明日が終業式のため、夏休み前に学校を通して周知することは難しい。
- どのくらいの中学生が新聞等を見ているのか、主体的に県教育委員会のホームページを見に行くのか、という疑問がある。
- むつ市内の小・中学校では、出欠の連絡や学校からのお知らせについて保護者とオンラインでやり取りできるツールがある。校長の理解が得られれば、このツールを使って周知することも考えられる。
→ (事務局) 県教育委員会からの周知は中学2年生だけなのか、全学年なのか確認したい。
- 県教育委員会は全体に周知し、我々委員が自主的に市内の子どもたちに対して周知するというようなことで良いのではないか。
- 県教育委員会としては、県民から広く意見をいただきたいということなので、例えば、中学2年生にしっかり周知するというのであれば、委員が工夫して行うということで良いか。
- 委員の皆さんが言うように、中学2年生の意見を知りたいということであれば、校長会と連携すれば対応可能と考えられる。あとは、主体的に自助努力で

意見が出るように工夫するということが良いのではないか。

- 委員長が当委員会の意見を踏まえ、事務局において意見募集の方法等について対応を検討することを確認し、委員から了承された。

③校名案の絞り込み方法について

- 事務局が資料5により、「1 委員からの提案を基に協議により絞り込む方法」、「2 委員の投票により絞り込む方法」及び「3 グループ分けしてから協議又は投票により絞り込む方法」の3つの方法について説明した。
- 委員の多数決により、「委員からの提案を基に協議により絞り込む方法」に決定した。
＜1：8人、2：2人、3：1人＞
- 委員長から、各委員に対し、事務局から事前に送付される意見募集結果を参考として、統合校にふさわしいと思う校名案候補3つと、その校名案候補を選んだ理由を次回の委員会までに考えるよう依頼した。

(2) 総合学科の系列の方向性について

- 事務局が資料6により、第2期実施計画において、「大湊高校の系列（人文科学／自然科学／健康福祉／情報ビジネス）を基本としつつ、開設準備委員会の意見を踏まえながら検討する」こととしていること、統合校が目指す姿として「生徒のニーズや地域の特性を踏まえた系列を設置し、生徒の個性や能力を伸長させ、豊かな社会の実現に寄与する高校」としていることを説明した。
- 委員長が各委員に対し、総合学科の系列の方向性について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 現在の大湊高校の4つの系列は、生徒のニーズと地域の特性を考慮し、平成14年に設置されたものであり、それ以来、熟成を重ね現在に至っている。よって、この4系列を統合校に引き継いでいくことができれば良いと思う。
- 昨年度、大湊高校は「キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞していることから、ぜひこの系列を統合校でも継承してほしい。
- 金融、お金・経済の循環などについては、情報ビジネス系列で学ぶことができるのか。
- そのとおり。
- 委員長が当委員会の意見を踏まえ、開設準備室において検討を進めていくことを確認し、委員から了承された。

(3) 特色ある教育活動の方向性について

- 事務局が資料7により、「統合校に引き継ぎたい特色ある教育活動」については、下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見、下北地区統合校検討委員会からの要望、学校関係団体、産業関係団体との情報交換等における意見及び統合対象校からの提案を基に協議すること、「統合校の新たな特色ある教育活動」については、下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見、下北地区統合校検討委員会からの要望及び学校関係団体、産業関係団体との情報交換等における意見を基に協議することを説明した。

①下北地区統合校に引き継ぎたい特色ある教育活動

- 委員長が「統合校に引き継ぎたい特色ある教育活動」を提案した、統合対象校の校長である伊藤副委員長に対し、提案内容の説明を求めた。
- (伊藤副委員長) 1つ目は、東北や全国の校長会でも注目されている取組である「下北BOUSAIネットワーク」を統合校でも継続したい。2つ目は、様々な生徒のニーズに合わせた学習やオプション(選択肢)を組み込んでいくUDL(学びのユニバーサルデザイン)の研究の実施を継続したい。3つ目は、これまで長く実施してきているねぶた運行を継続できれば良い。
- 委員長が各委員に対し、統合校に引き継ぎたい特色ある教育活動について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 全面的に賛成する。下北BOUSAIネットワークでは、複数の学校が共同で本当に素晴らしい実践を行っている。また、むつ工業高校においても、民間団体等との共同研究や生徒の自主研究の発表を公開している。両校の素晴らしい活動をぜひ継続してほしい。

②統合校の新たな特色ある教育活動

- 委員長が各委員に対し、統合校の新たな特色ある教育活動について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 例えば、工業科の生徒が大学進学で数学Ⅲが必要となった場合、工業科にその科目がなくても、総合学科に開設している数学Ⅲを履修できるというように、大学科を越えた履修についても可能となるよう検討してほしい。
- 現在、むつ工業高校の設備・エネルギー科では、2年生になると2つの類型(設備コース、エネルギーコース)に分かれて授業を進めている。統合校においても、例えば、機械科では、機械加工、ロボット制御の類型、電気・エネルギー科では、電気、エネルギーの類型を設定するなど、生徒の進路志望に合わせて選択できる学習形態を作ることができれば良いと考えている。また、特色ある教育活動として、様々な資格取得に関する意見等を多くいただくが、学習指導要領においては、直接的に資格取得が目的となっているものはない。一部の科目においては、探究的な活動を取り入れたり、教科内でバランスを取った

りしながら資格取得を目指すものもあるが、一概に科目イコール資格取得ではないということを踏まえながら教育活動を考える必要がある。

- 委員長が下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見、下北地区統合校検討委員会からの要望、学校関係団体、産業関係団体との情報交換等における意見及び統合対象校からの提案を基本としつつ、当委員会の意見を踏まえ、開設準備室において検討を進めていくことを確認し、委員から了承された。

(4) 総合学科と工業科の連携の方向性について

- 事務局が資料8により、総合学科と工業科の連携の方向性については、下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見及び統合対象校からの提案を基に協議することを説明した。

- 委員長が「総合学科と工業科の連携」を提案した、統合対象校の校長である伊藤副委員長に対し、提案内容の説明を求めた。

- (伊藤副委員長) 総合学科の健康福祉系列の生徒と工業科の生徒が共同で、例えば、医療機器の設計や改良を行うプロジェクトを実施できたら良いと思う。また、総合学科と工業科を越えた自由選択科目を設定し、相互に履修することができれば良いと考える。特に、両校ではSTEAM教育、アントレプレナーシップ教育をそれぞれの立場から行ってきていることから、良い形で融合させることができれば、波及効果があるのではないかと考える。

- 委員長が各委員に対し、総合学科と工業科の連携の方向性について意見を求めたところ、次のような意見があった。

- 統合校の教育活動は、アントレプレナーシップと教科横断的な学習がメインだと思っている。また、大学科を越えての自由な選択履修ができれば良い。統合校では、下北版のSTEAM教育を行うことができれば、生徒たちにとって素晴らしいことだと考える。これらの取組によって、総合的な探究の時間や課題研究を充実させ、キャリア教育につなげていくことができれば、充実した教育課程の実現が図られるのではないかと考える。

提案であるが、現在の予定では、来年度、むつ工業高校に設置する開設準備室において教育課程を編成することとなるが、総合学科と工業科の統合となると教育課程の編成にも時間がかかることが想定されるため、今年度からワーキンググループを設置し、下地を作っていくことが必要ではないかと考える。

- 委員長が下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見及び統合対象校からの提案を基本としつつ、当委員会の意見を踏まえ、開設準備室において検討を進めていくこと、教育課程の編成などに向けてワーキンググループを設置し、今年度から検討していくことを確認し、委員から了承された。

4 その他

ワーキンググループによる制服の検討について

- 委員長がワーキンググループによる制服の検討について野呂副委員長に対し、状況の説明を求めた。
- (野呂副委員長) ワーキンググループは、両校の教頭、生徒指導部の教員、PTAの代表者の計8名で構成した。6月25日に第1回の会議を開催し、今後の検討の進め方等を話し合った。来週に第2回の会議を開催し、基本コンセプトや企画提案書の作成を予定しており、8月には業者と連絡を取り進めていきたい。年度内に計7回の会議を予定している。

- 委員長がオブザーバーに対し、第3回委員会の開催に向けて、校訓、校章、校歌などの資料作成に協力を求めた。

5 閉会